

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤推進研究事業）
社会的責任に応える医療の基盤となる診療ガイドラインの課題と可能性の研究

平成29年度 分担研究報告

臨床医学系学会における診療ガイドライン作成の課題と可能性
- 診療ガイドライン作成現場における課題：各領域の作成委員会参加を通して

研究分担者 吉田雅博 国際医療福祉大学医学部消化器外科学教室 教授
日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 客員研究主幹
研究協力者 奥村晃子 日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 副部長
畠山洋輔 日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 主任

【研究要旨】

【背景】日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 Minds (Medical information network distribution service)ガイドラインセンターは、2011年から網羅的検索、系統的評価による選定に基づいた診療ガイドラインデータベースの構築を開始し、一般国民に診療ガイドラインを普及し、活用を促進するための活動を行っている。Minds では、「ガイドライン作成マニュアル」や「ガイドライン作成の手引き」を出版し、作成のための資料を提供しているが、具体的な作成は専門系学会に委ねられており、作成方法論の普及と具体的な作成支援は、十分とは言えない。

【目的】Minds では、2011年から、診療ガイドラインの普及にあわせて、診療ガイドラインの作成支援を拡充させてきた。本報告は、ガイドライン作成委員会の現場のニーズや課題についての実態に関して、2017年4月～2018年3月に、直接ガイドライン作成委員会に参加し、ガイドライン作成委員会の作成現場における傾向と課題を抽出することを目的としている。

【方法】

- (1) 診療ガイドライン作成委員会に直接参加する（現在の所、依頼ベース）
- (2) ガイドライン作成支援の内容を集計、解析する

【結果】

- (1) 作成支援 28 ガイドライン委員会に延べ 55 回参加
統括委員会関係 8 学会等に延べ 11 回参加
- (2) ガイドライン作成支援の内容
 - スコープ（重要臨床課題、CQ） 13（23.6%）
 - システマティックレビュー 16（29.0%）
 - 推奨作成 18（32.8%）
 - 普及のための工夫 4（7.3%）
 - 総論（全体の説明） 4（7.3%）

【考察】

(1) 作成支援依頼として、推奨作成、システマティックレビュー、スコープの順に多く、85%を占めた。

(2) 一方、普及のための工夫に関する支援依頼は、7.3%にとどまった。

現時点では、ガイドライン作成・普及・活用・評価というガイドライン作成改訂の流れの中の第一段階で、支援が依頼されているにすぎない。

【結論】

質の高い診療ガイドライン作成に向けた支援は言うまでもないが、普及に向けた取り組みを行なう必要が再認識された。

背景

日本医療機能評価機構 EBM 医療情報部 Minds (Medical information network distribution service)ガイドラインセンターは、2011 年から網羅的検索、系統的評価による選定に基づいた診療ガイドラインデータベースの構築を開始し、一般国民に診療ガイドラインを普及し、活用を促進するための活動を行っている。Minds では、「ガイドライン作成マニュアル」や「ガイドライン作成の手引き」を出版し、作成のための資料を提供しているが、作成は専門系学会に委ねられており、作成方法論の普及と具体的な作成支援は、十分とは言えない。

A. 研究目的

Minds では、2011 年から、診療ガイドラインの普及にあわせて、診療ガイドラインの作成支援を拡充させてきた。本報告は、ガイドライン作成委員会の現場のニーズや課題についての実態に関して、2017 年 4 月～2018 年 3 月に、直接ガイドライン作成委員会に参加し、ガイドライン作成委員会の作成現場における傾向と課題を抽出することを目的としている。

B. 方法

(1) 診療ガイドライン作成委員会に直接参加する(現在の所、依頼ベース)

(2) ガイドライン作成支援の内容を集計、解析する

C. 結果(表1)

(1) 作成支援として 28 ガイドライン委員会に延べ 55 回参加、統括委員会関係に対し 8 学会等に延べ 11 回参加した。

(2) ガイドライン作成支援の内容

スコープ(重要臨床課題、CQ)	13 (23.6%)
システムティックレビュー	16 (29.0%)
推奨作成	18 (32.8%)
普及のための工夫	4 (7.3%)
総論(全体の説明)	4 (7.3%)

D. 考察

作成支援依頼として、推奨作成、システムティックレビュー、スコープの順に多く、85%を占めた。一方、普及のための工夫に関する支援依頼は、7.3%にとどまった。現時点では、ガイドライン作成・普及・活用・評価というガイドライン作成改訂の流れの中

の第一段階で、支援が依頼されているにすぎない。

より臨床で役に立つガイドライン作成のためには、ガイドライン出版とそれに引き続く、普及・活用・評価についても、十分な情報提供と支援が必要である。

E. 結論

質の高い診療ガイドライン作成に向けた支援を行う事は言うまでもないが、普及に向けた取り組みも同時に啓発する必要が再認識された。

F. 参考文献

1. 福井次矢、山口直人編. 診療ガイドライン作成の手引き 2014. 医学書院、東京

G. 健康危険情報

該当なし

H. 研究発表

1. 論文発表

1) 吉田雅博. 診療ガイドライン推奨作成のための合意形成法 Delphi 法についての調査報告. 東京女子医科大学雑誌 2017; 88: 35-37.

2) 吉田雅博. 特集 診療ガイドライン最新版による膵癌診療アップデート、「根拠に基づく」から「GRADE システム」へ. 肝胆膵 2017; 76: 349-354.

2. 学会発表

1) Masahiro Yoshida. Updating Tokyo Guidelines Public Hearing, Keynote Lecture. 第 6 回 A-PHPBA(アジア肝胆膵学術集会). 横浜. 2017.6

I. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得 該当なし

2. 実用新案登録 該当なし

3. その他 該当なし

表 1-1 . 診療ガイドライン作成参加年間テーブル (作成支援)

	2017年4月	2017年5月	2017年6月	2017年7月	2017年8月	2017年9月	2017年10月	2017年11月	2017年12月	2018年1月	2018年2月
1 日本産科婦人科内視鏡外科ガイドライン	CQ作成, 文献検索									推奨決定には、エビデンス、利益と害のバランス、患者希望、経済評価の4項目	
2 下肢静脈瘤治療ガイドライン	CQ作成										
3 腰痛ガイドライン	SR全般			推奨案の検討	推奨案の検討	推奨案の検討			推奨案の検討	推奨案の検討	
4 原発不明癌診療ガイドライン	ガイドライン総論				改訂版作成会議、マインズ作成手引きをすでに、勉強済み、観察研究のSRの説明と、観察研究のメタの説明を行った。		SRの結果と推奨への検討方法			推奨作成	
5 内視鏡外科ガイドライン委員会	SR (個別文庫の評価と総合評価)	(CQから)文献検索									
6 周術期感染管理ガイドライン	Background QuestionとForeground Questionの選別							Meta解析結果と推奨作成		推奨案作成	推奨作成 (欠席が多く、投票延期)
7 理学療法ガイドライン2版	CQ全般										
8 急性胆管炎胆嚢炎診療ガイドライン	推奨作成のコンセンサス会議 患者の希望の考え方	推奨作成のコンセンサス会議 患者の希望の考え方		英語版ガイドライン作成方針とアプリ作成について							
9 消化器病学会ガイドラインSR委員会									SRグループへの講習会		
10 骨軟部腫瘍診療ガイドライン		スコープ作成段階 (重要臨床課題の考え方、位置付けと、CQまでの選別、ガイドライン利用対象者の考え方)		SRグループへの講習会			SRに関する質問解説			SRグループへの講習会	
11 高血圧ガイドライン		SR全般									
12 内視鏡学会早期胃癌診断ガイドライン		ステートメントの確認 (アンサーバドを用いた、Delphi法による評価)		推奨草案のドラフトを詳細に検討し、次回の投票につなげるための資料整備	ステートメントに対するDelphi評価の方針						
13 脳道閉鎖症診療ガイドライン			出版形式の検討 (書籍・厚労省研究報告)								推奨決定の投票での合意率の考え方
14 乳癌診療ガイドライン			SRの中間報告会、アウトカムの再設定、論文からの再設定の可否、診断のメタ解析について、STATAを用いて、統計学専門家に頼んで、行かについて			患者向けガイドラインの検討				推奨作成	
15 短期時無呼吸症候群 (肺動低換気症候群) 診療ガイドライン			SR結果								
16 内視鏡学会 大腸サーベイランスガイドライン					総論説明とスコープ (CQ)作成について						
17 肺炎ガイドライン						ダイジェスト版作成の要点					
18 脳道閉鎖症診療ガイドライン							総論とCQの説明 (CQとバックグラウンドエスチュアの理解、これを踏まえたCQの検討)			推奨作成方法	
19 痔瘻診療ガイドライン				CQとバックグラウンドエスチュアの理解、これを踏まえたCQの検討							
20 前十字靭帯損傷診療ガイドライン						RevMan講習会	SR結果から推奨作成へ	推奨案の検討 (強く推奨するの書き方)			
21 大腸骨盤部骨折ガイドライン							CQ作成方法				
22 大腸ESD/EMRガイドライン										スコープ作成の重要性	
23 遠隔診療ガイドライン (班会議)										EBMの考え方と診療ガイドラインの基本	
24 転移性肝臓癌診療ガイドライン										重要臨床課題検討	
25 脳腫瘍診療ガイドライン										CQの種類の見直し	
26 胃癌内視鏡外科ガイドライン										ガイドライン総論	
27 上肢骨外傷上腕炎診療ガイドライン											RevMan講習会
28 泌尿器内視鏡外科診療ガイドライン											ガイドライン総論

表 1-2 . 診療ガイドライン作成参加年間テーブル (学会統括委員会等)

	2017年4月	2017年5月	2017年6月	2017年7月	2017年8月	2017年9月	2017年10月	2017年11月	2017年12月	2018年1月	2018年2月
1 消化器病学会ガイドライン調整委員会 統括委員会		ガイドライン統括委員会の位置付けと設置方法 委員の選抜方法		統括委員会				多学会合同ガイドラインの組織方法			
2 消化器内視鏡学会ガイドライン統括委員会		学会としての更新ガイドラインの計画					各ガイドラインの進捗状況・課題・今後の予定				
3 乳癌診療ガイドライン統括委員会				学会での統括委員会							
4 臨床腫瘍学会統括委員会				1) 全ガイドライン・ガイドライン作成状況報告 2) 2017年度のガイドライン等の改訂について ・骨転移診療ガイドラインの改訂の検討 ・TLS診療ガイドラインの改訂の検討 4) 日台韓での化学療法ガイドライン作成について							
5 日整会診療ガイドライン統括委員会							Minds2014の説明				
6 大腸研究会統括委員会				改訂委員会の予定検討							
7 癌治ガイドライン統括委員会							診療ガイドライン作成改訂への本学会の関与について 1) 高齢がん患者を対象とした診療ガイドラインについて 2) 分子腫瘍マーカー診療ガイドラインについて 3) 希少がんに関するガイドラインについて 4) その他				
8 癌科ガイドラインライブラリー部会						関連ガイドラインの評価					